

九州支所

九州支所は熊本市に所在し、国有林や各県関係機関と連携して九州・沖縄8県の森林・林業に関わる研究に取り組んでいます。ここではその一端を紹介いたします。

最初は、再造林後の初期保育経費の低コスト化とシカ被害低減に関する研究です。担当者は九州森林管理局や森林整備センター等と連携してコンテナ苗等を利用した初期保育の低コスト化や下刈り省略によるシカ被害軽減等に取り組んでいます。

つぎに、シイタケをはじめとするキノコの栽培環境に関する研究です。キノコ栽培は九州地域の重要な産業です。各県の試験研究機関と連携してシイタケ栽培に対する温暖化影響への対応策等に取り組んでいます。

更に、亜熱帯林の保全と利用に関する研究です。沖縄・奄美地方の林業が行われている森林における生物多様性やその保全に関わる調査・研究を関係者と連携して行っています。

最後に、九州支所では国有林の協力のもと1956年以来森林からの水流出や土砂生産を観測しています。長期観測データの蓄積により、森林からの水流出に対する伐採や地球温暖化の影響が明らかになります。



枯れ木に巣を造っているノグチゲラ



国有林と連携して行っているスギコンテナ苗の植栽試験



森林からの水流出の観測



シイタケの原木栽培現場
(写真は共同研究を行っている宮崎県林業技術センターから提供)